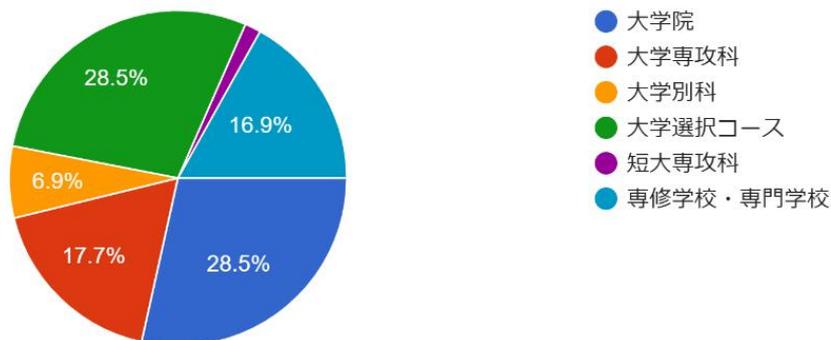
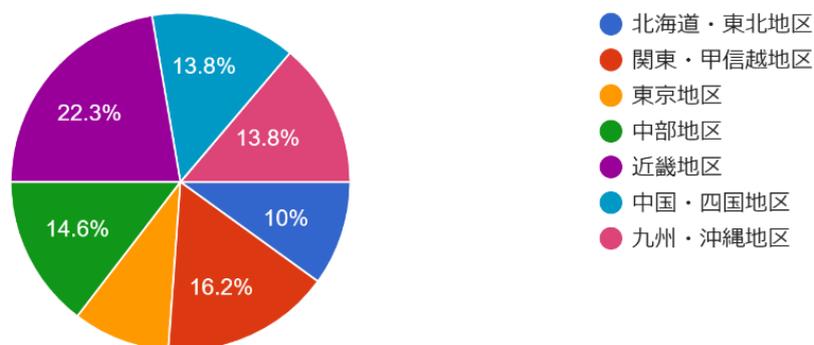


2020年度 助産学実習の実態調査（130件の回答）

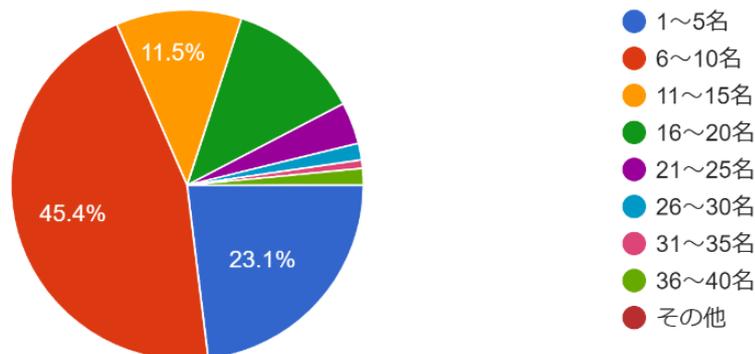
1. 貴校の教育課程を教えてください。130件の回答



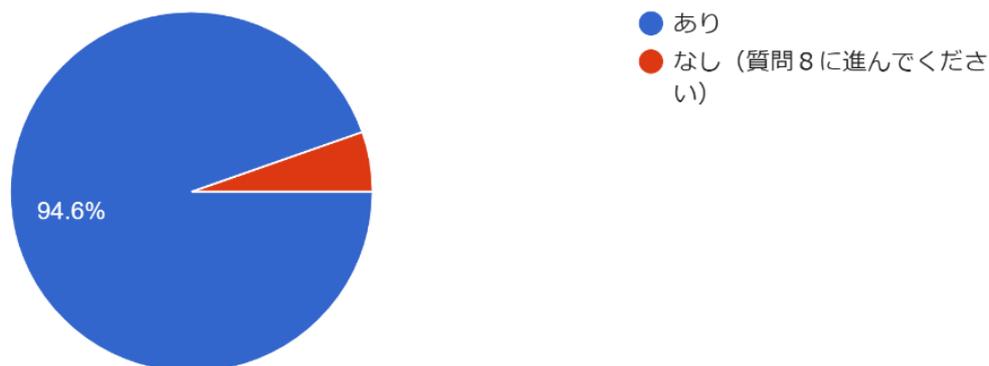
2. 貴校が所属する地区を教えてください。130件の回答



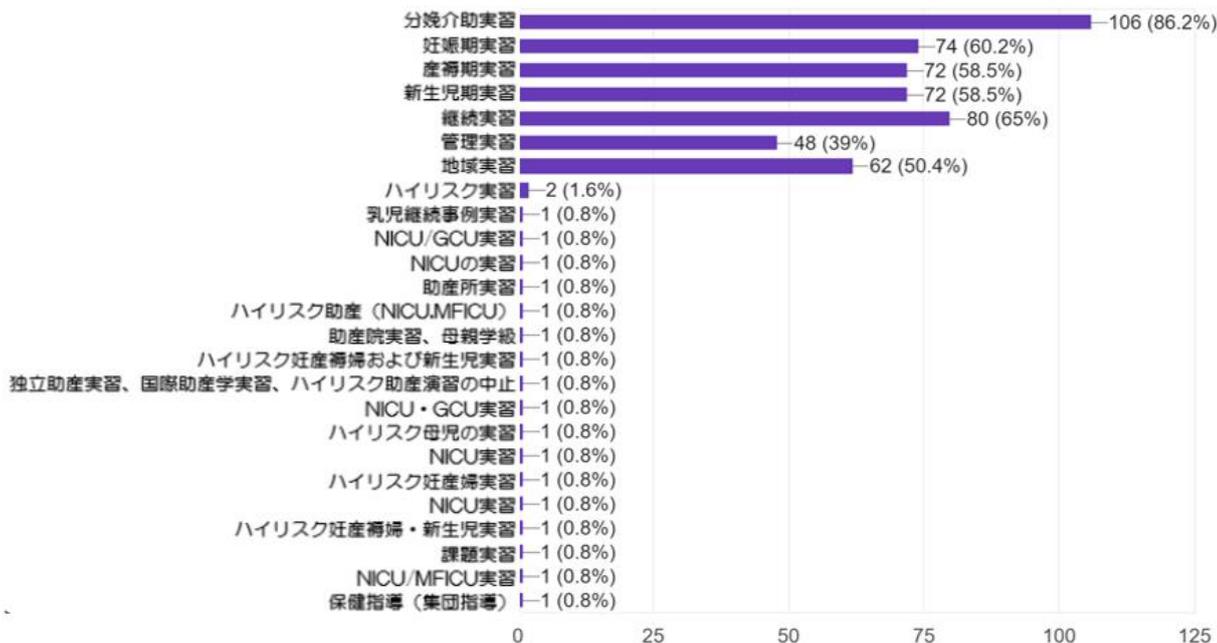
3. 2020年度に助産学実習を行った学生数を教えてください。130件の回答



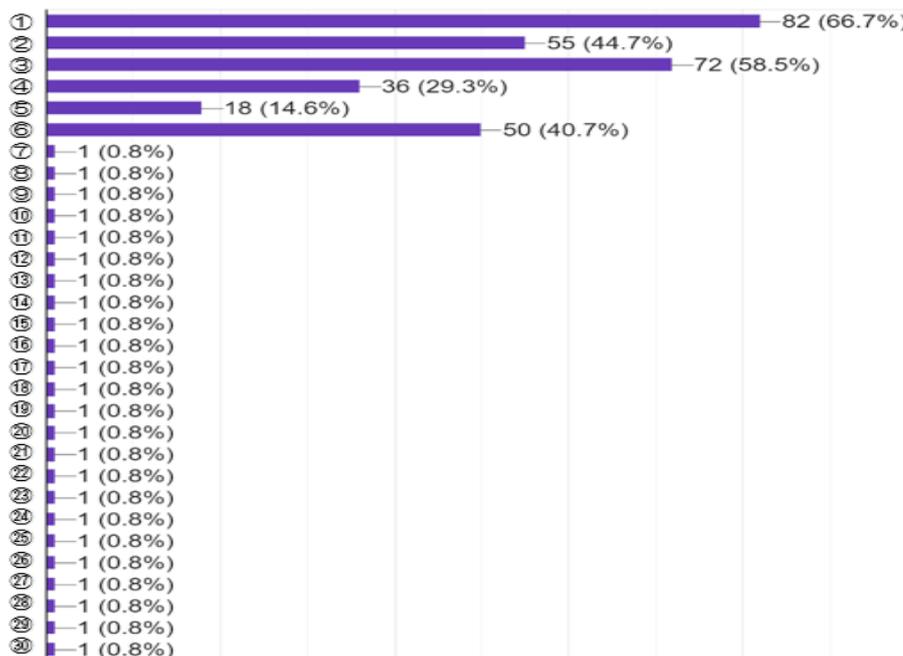
4. 新型コロナウイルス感染症の助産学実習への影響はありましたか。130件の回答



5. (質問4で「あり」と回答した方がご回答ください) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた助産学実習の内容を教えてください。(複数回答可) 123 件の回答

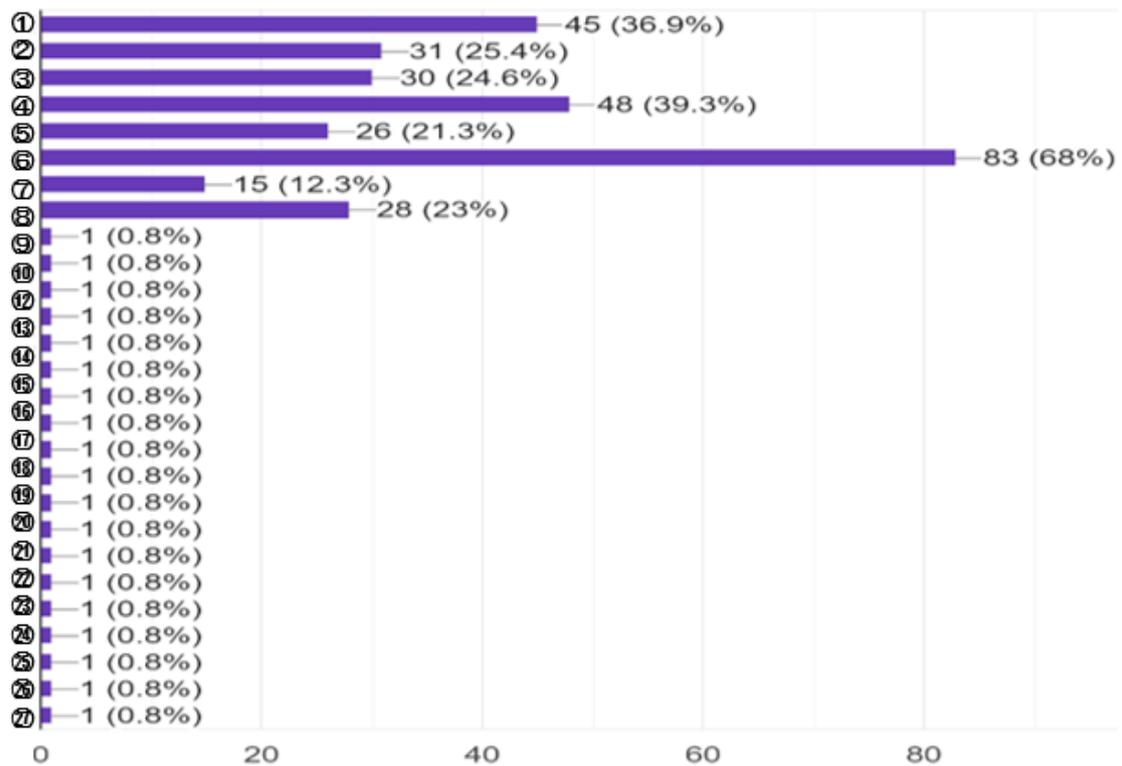


6. (質問4で「あり」と回答した方がご回答ください) 新型コロナウイルス感染症の助産学実習への影響はどのようなものでしたか。(複数回答可) 123 件の回答



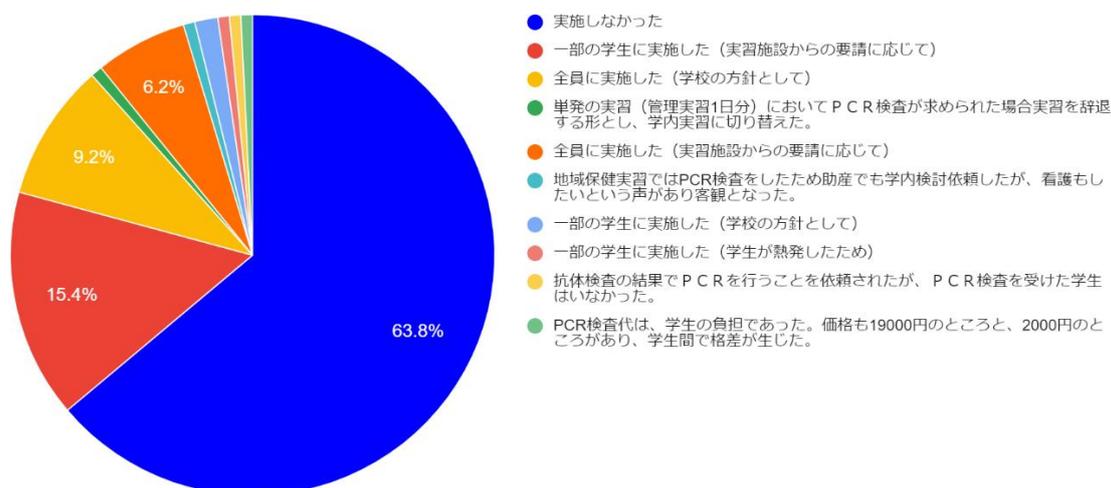
- ①実習の中止 ②実習時期の移動 ③実習期間の短縮 ④実習時間帯の限定(日勤のみ等) ⑤週末や祝日の実習中止
- ⑥配置する学生数の変更 ⑦学生の就職試験(東京)による実習の中止(2週間) ⑧実習方法の変更 ⑨実習内容の変更
- ⑩実習場所の変更 ⑪PCR検査、学生の宿泊・行動の限定と費用負担 ⑫実習内容の変更(分娩見学のみ)
- ⑬実習休止と再開を繰り返し、更に就職試験で流行地から戻って2週間の自宅待機。実習施設の減少
- ⑭分娩介助を除き、1回の制限時間を15分以内にする ⑮院内での実習箇所の縮小(外来や新生児室は禁止等)
- ⑯同時に病棟に入れる学生が制限された ⑰実習への教員の同行不可 ⑱実習の延長なし
- ⑲受け入れ施設が限定のため、実習期間を延長 ⑳妊産婦への接触制限(ケア中止) ㉑週末や祝日の実習実施
- ㉒実習場所の制約(外来のみとなった) ㉓一部の施設で通学をやめ宿泊学習とした
- ㉔実習施設の近隣(県外)に行った際には1週間程度施設内での実習停止となった ㉕実習内容の制限 ㉖対面での実習の中止
- ㉗実習内容 ㉘外来実習は別室で健康教育を実施するなど、極力、他の妊婦に学生の姿が見えないように施設が配慮してくださった
- ㉙訪問方法の変更 ㉚学内実習を行った

7. (質問4で「あり」と回答した方がご回答ください) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた助産学実習への対応について教えてください。(複数回答可) 122 件の回答



- ①別の実習施設を依頼 ②実習施設に配置する学生数を増加 ③実習施設に配置する学生数を減少 ④実習時期の先延ばし
- ⑤受け持ち妊産婦等を複数の学生で担当 ⑥学生を登校させての学内実習に変更 ⑦学生と臨床をつなぐオンライン実習に変更
- ⑧学生と教員をつなぐオンライン実習に変更 ⑨学内演習
- ⑩提供していただく予定の宿泊場所がなくなり学生の負担費がかさむこととなった。県外実習ができなくなり県内の実習を企画・依頼し実施した ⑪学内で下級生を対象にした集団指導の実施、学内でシミュレーション実施など
- ⑫地域実習で行う集団指導を学内演習で代替えた。乳児期の健康診断は2週間健診、1か月健診で代替えた。
- ⑬6の回答と同様に対応
- ⑭地域での集団指導の見学実施はできなかったが、学内演習で実施した。乳児健診に参加できなかったが、病院施設の2週間検視や1か月健診、母乳相談の際の見学を行った
- ⑮ペーパーペイシェントで補足学習
- ⑯実習期間の延長 ⑰学生が実習病棟にいる時間の短縮、実習病棟で複数の学生が実習しない
- ⑱補習実習
- ⑲ハイリスク事例を用いて学内実習と臨床指導者による講話
- ⑳一部の施設で施設間をまたぐ実習の場合は、2週間の学習期間を設ける
- ㉑自宅(宿泊施設)で学習、停止期間後週末や祝日の実習や、学生間の受け持ちローテーションを調整
- ㉒他の実習施設での実習内容を調整し対応
- ㉓臨床の方に学内に来ていただき、ハイリスク実習に関して講義を行っていただいた。
- ㉔実習開始時期を遅延、実習指導者が来学しての演習
- ㉕実習開始日の変更(7月の前期実習を9月後半に移動)
- ㉖見学。臨床で分娩期の一部分まで受け持った事例の経過と分娩介助を学内実習で実施
- ㉗学生が実習病棟にいる時間の短縮、実習病棟で複数の学生が実習しない
- ㉘学生と継続ケースを繋ぐオンライン実習へ変更(教員も参加)

8. 実習前における学生の PCR 検査の実施の有無を教えてください。130 件の回答



実施しなかった:83 件

一部の学生に実施した (実習施設からの要請に応じて):20 件

全員に実施した (学校の方針として):12 件

単発の実習 (管理実習 1 日分) においてPCR検査が求められた場合実習を辞退する形とし、学内実習に切り替えた:1 件

全員に実施した (実習施設からの要請に応じて):8 件

地域保健実習では PCR 検査をしたため助産でも学内検討依頼したが、看護もしたいという声があり客観となった:1 件

一部の学生に実施した (学校の方針として):2 件

一部の学生に実施した (学生が熱発したため):1 件

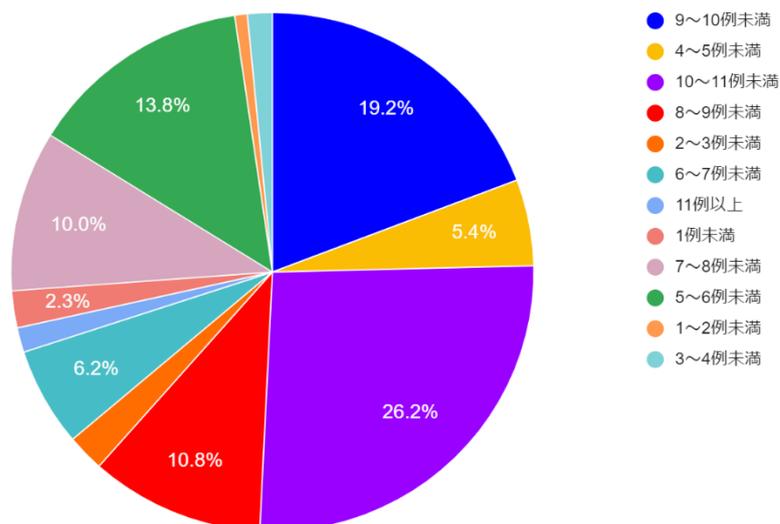
抗体検査の結果でPCRを行うことを依頼されたが、PCR検査を受けた学生はいなかった:1 件

PCR 検査代は、学生の負担であった。価格も 19000 円のところと、2000 円のところがあり、学生間で格差が生じた:1 件

全員に実施した (学生の希望により):0 件

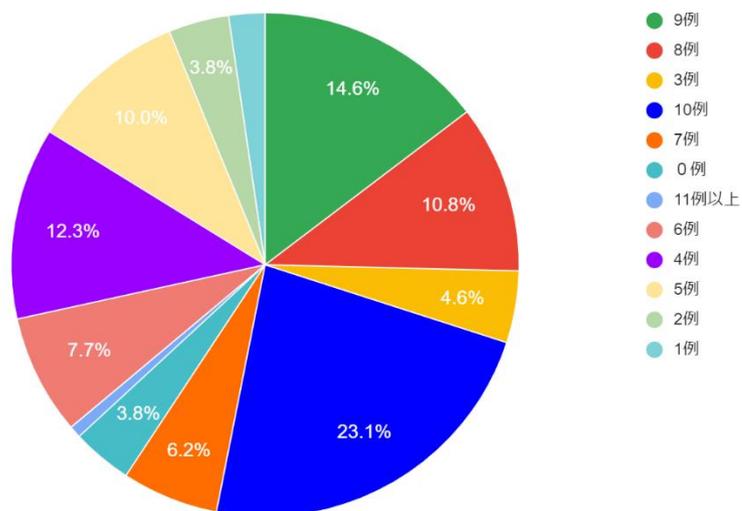
一部の学生に実施した (学生の希望により):0 件

9. 2020 年度の「臨地」での学生 1 名あたりの平均分娩介助件数を教えてください。130 件の回答



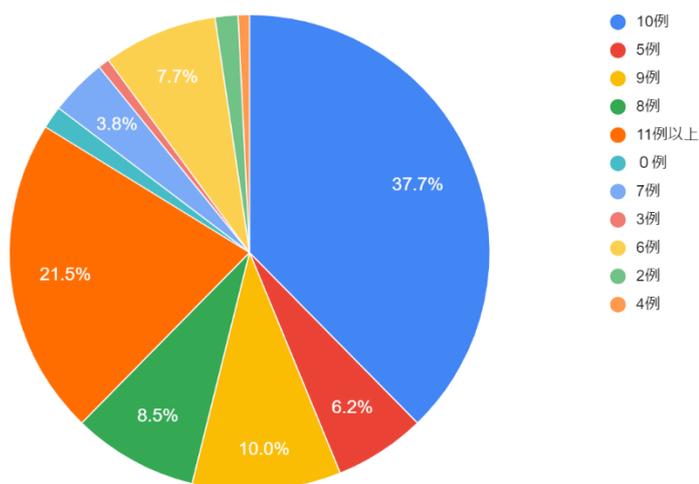
10~11 例未満:34 件の回答/9~10 例未満:25 件の回答/5~6 例未満:18 件の回答/8~9 例未満:14 件の回答/7~8 例未満:13 件の回答/6~7 例未満:8 件の回答/4~5 例未満:7 件の回答/1 例未満:3 件の回答/
2~3 例未満:3 件の回答/3~4 例未満:2 件の回答/11 例以上:2 件の回答/1~2 例未満:1 件の回答

10. 2020年度の「臨地」での学生の最少分娩介助件数を教えてください。130件の回答



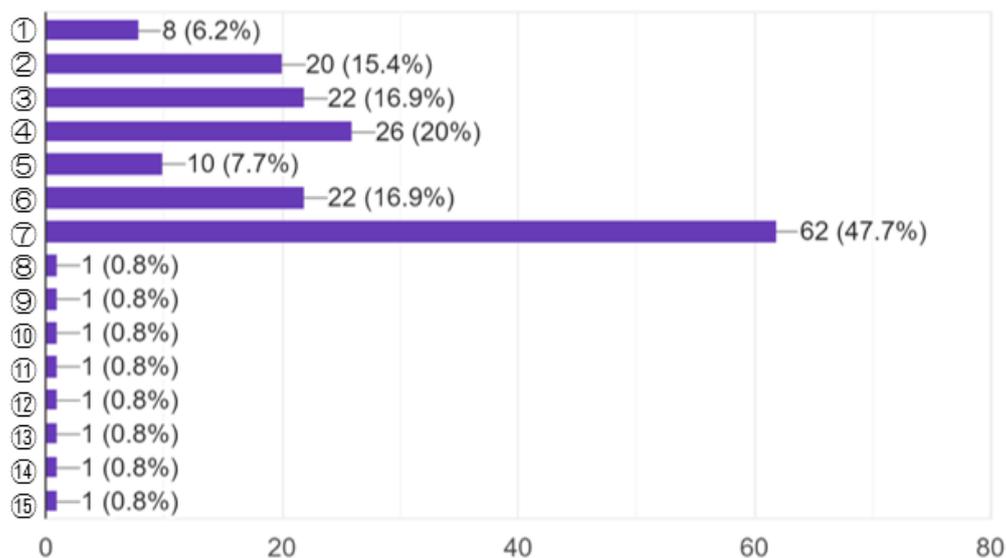
10例:30件の回答/9例:19件の回答/4例:16件の回答/8例:14件の回答/5例:13件の回答/6例:10件の回答/7例:8件の回答/3例:6件の回答/0例:5件の回答/2例:5件の回答/1例:3件の回答/11例以上:1件の回答

11. 2020年度の「臨地」での学生の最多分娩介助件数を教えてください。130件の回答



10例:49件の回答/11例以上:28件の回答/9例:13件の回答/8例:11件の回答/6例:10件の回答/5例:8件の回答/7例:5件の回答/0例:2件の回答/2例:2件の回答/3例:1件の回答/4例:1件の回答/

12. 全国助産師教育協議会が作成した「助産学実習 学内実習指針 2020」の事例の使用について教えてください。(複数回答可) 130 件の回答

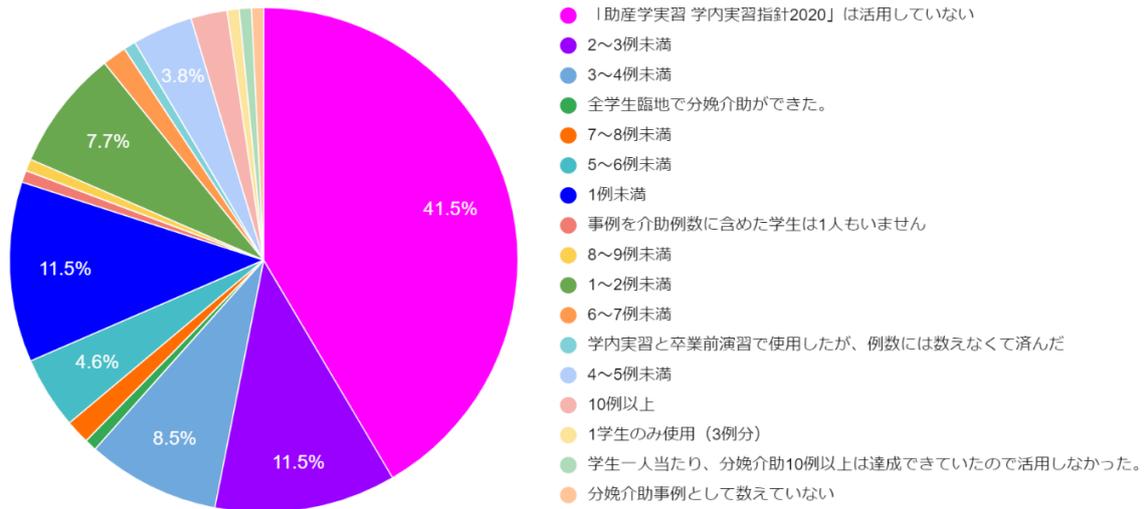


- ①助産学実習前に分娩介助事例としてそのまま使用した
- ②助産学実習前に分娩介助事例としてアレンジして使用した
- ③助産学実習途中に分娩介助事例としてそのまま使用した
- ④助産学実習途中に分娩介助事例としてアレンジして使用した
- ⑤助産学実習後に分娩介助事例としてそのまま使用した
- ⑥助産学実習後に分娩介助事例としてアレンジして使用した
- ⑦分娩介助事例としては使用していない
- ⑧大変役立ちました。ありがとうございました
- ⑨独自の事例を使用
- ⑩継続実習の妊娠期の妊婦状況設定に使用した
- ⑪学生 1 名が体調不良により 2 週間欠席したため、補講としてアレンジして使用した
- ⑫アレンジして準備したが、実習で必要数の介助ができたため、使用しなかった
- ⑬コロナにより実習中止になった際に学内演習事例としてそのまま使用した
- ⑭実習後の振り返りに使用した
- ⑮受け持ったが分娩介助に至らなかったケースを実施した

13. 「助産学実習 学内実習指針 2020」に添付した評価表の使用について教えてください。(複数回答可) 130 件の回答



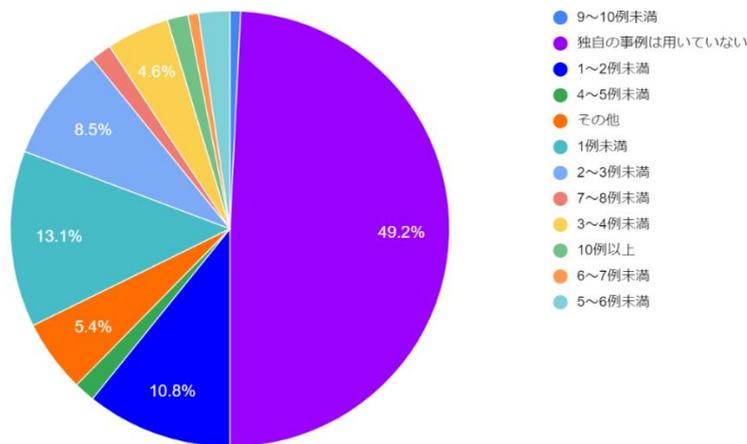
14. 「助産学実習 学内実習指針 2020」を活用して(アレンジして活用した場合も含む)分娩介助事例として数えた学生 1 名あたりの平均例数を教えてください。130 件の回答



「助産学実習 学内実習指針 2020」は活用していない 54 件の回答

1例未満:15 件の回答/2~3 例未満:15 件の回答/3~4 例未満:11 件の回答/1~2 例未満:10 件の回答/5~6 例未満:6 件の回答/4~5 例未満:5 件の回答/10 例以上:3 件の回答/6~7 例未満:2 件の回答/7~8 例未満:2 件の回答/8~9 例:未満 1 件の回答/事例を介助例数に含めた学生は 1 人もいません:1 件の回答/学内実習と卒業前演習で使用したが、例数には数えなくて済んだ:1 件の回答/1 学生のみ使用(3 例分)1 件の回答/学生一人当たり、分娩介助 10 例以上は達成できていたので活用しなかった:1 件の回答/分娩介助事例として数えていない:1 件の回答/全学生臨地で分娩介助ができた:1 件の回答/

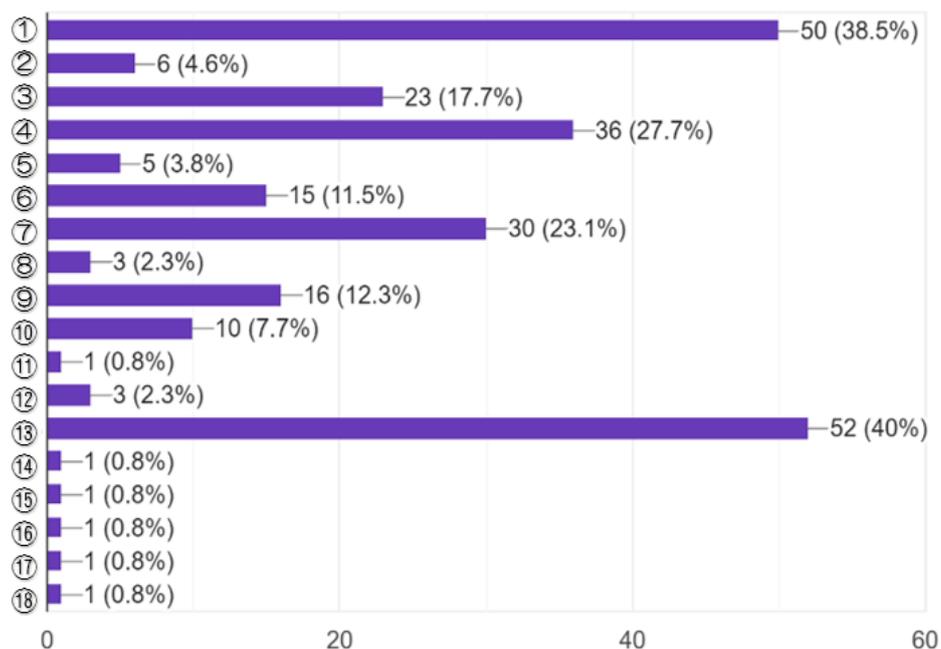
15. 「助産学実習 学内実習指針 2020」を活用せずに、貴学独自の事例を用いて分娩介助事例として数えた学生 1 名あたりの平均例数を教えてください。130 件の回答



独自の事例は用いていない 64 件の回答

1例未満:17 件の回答/1~2 例未満:14 件の回答/2~3 例未満:11 件の回答/その他:7 件の回答/3~4 例未満:6 件の回答/5~6 例未満:3 件の回答/4~5 例未満:2 件の回答/7~8 例未満:2 件の回答/10 例以上:2 件の回答/6~7 例未満:1 件の回答/9~10 例未満:1 件の回答

16. 「助産学実習 学内実習指針 2020」のどの事例をどの場面で活用したか（アレンジして活用した場合も含む）を教えてください。（複数回答可）130 件の回答



- ①正常編を分娩介助事例として活用
- ②正常編を講義で活用
- ③正常編を演習で活用
- ④正常軽度逸脱編を分娩介助事例として活用
- ⑤正常軽度逸脱編を講義で活用
- ⑥正常軽度逸脱編を演習で活用
- ⑦異常編を分娩介助事例として活用
- ⑧異常編を講義で活用
- ⑨異常編を演習で活用
- ⑩継続ケース編を分娩介助事例として活用
- ⑪継続ケース編を講義で活用
- ⑫継続ケース編を演習で活用
- ⑬活用していない
- ⑭臨地実習後の補修実習（学内実習/臨地実習準備に活用
- ⑮学内実習として事例 14 と事例 19 を参考に追加情報を加えるなどアレンジして展開を行っている
- ⑯正常編をアレンジした
- ⑰正常編と異常編を演習で活用できるように準備したが活用する機会がなかった
- ⑱CTG のみ参考にさせていただきました

17. 「助産学実習 学内実習指針 2020」について、忌憚のないご意見をお書きください。

63 件の回答

- ・まったくそのまま使用するには、情報が足りなかった。
- ・2021年度どのような影響を受けるかを危惧している。
- ・指針があって助かりました。助産所の継続事例は、助産師の自律性（病院事例ですと、医師に報告するに頼りがちになる）を評価することもできて、まとめ事例に有用でした。
- ・とても役に立ち、ありがたかったです。
- ・作成してくださり大変助かりました。モニターの例示をもっと多く入れていただけると、さらに使いやすいものになるのではないかと思います。
- ・大変役に立ちました。ありがとうございました。時間が飛びすぎていて、間を埋めることが難しかったです。また、事例によって提供されている情報に違いがあったため、整合性を持って事例展開を行うために、実施前に詳細な打ち合わせが必要な状況でこれに教員の時間がかなり割かれる状況でした。それでも一から事例を作成するよりははるかに効率的に学内実習を進めることが可能でした。また、CTG 図があったことが学生の学びの深まりになったと思います。ありがとうございました。
- ・学内演習でも事例展開をしており、多くの事例展開を作成するのに時間がなく、違う視点を盛り込んである展開で、大変役に立ちました。
- ・助産学実習の学内実習を検討している時、一つの指針が提示され、とても参考になった。しかし、事例によっては妊婦健診中（妊娠経過）の情報の少ない、実際にこのような事例に臨床であったら、経膈分娩は無理で急速遂娩・帝王切開になっているのではと思われるような事例もあった。コロナ禍でOSCEに出会え、思考錯誤する機会があったよかった。
- ・活用させていただきありがとうございました。助かりました。
- ・あの指針を示していただいただけでもありがたかったです。
- ・使用していないのでわからない
- ・良かったです。大変助かりました。学生の実習進度や習熟に合わせて使用したり、アレンジしたりしました。
- ・学生の状況に合わせてアレンジして学修に大変役立ちました。
- ・今年度の困難な状況で、学内実習指針があったことは本当に支えになりました。結局は臨地で例数を介助することができたので、実習中に使用することはなかったのですが、この指針があることで、何とかなると思うことができ、実習を組むことができました。今年度地域の実習がかなり難しかったため、学内でなにができるかを模索しました。地域の実習を学内実習としていく方法なども検討したいです。
- ・学内実習を代替するにあたり参考になりました。
- ・はじめはもう少し正常例がほしいと思いましたが、アレンジして使えるので、使いやすかったです。
- ・学習目標をもう少し細かく設定する必要があると感じた。質問をかなりアレンジしました。
- ・非常に優れた事例であると感じた。臨地で10例に満たないときに、本当に役立った。
- ・時間がなくて、あまり見るできませんでした。申し訳ありません。
- ・急なコロナ禍の中で、非常に役立ちました。
- ・分娩介助事例として活用することはありませんでしたが、大変よく作成できており、参考とさせていただきます。ありがとうございました。
- ・学内演習で助産過程を展開しました。助産診断を報告するロールプレイング、実習記録用紙に記載する演習を学内で行っていたので、初回の分娩介助実習には助産診断ができていました。学習目標が提示されていたので、活用しやすかったです。
- ・紙上事例を扱う学内実習は最後の手段とする方が望ましい。むしろ、臨地実習で受け持った生きた対象について、1) 「分娩娩出介助に至らなかった分娩第1期のアセスメント(判断)とケア(実施)を実習記録から評価し、2)

及び養成所の運営に関する指導ガイドライン(註2)別表12「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」に示されている実践能力の項目に関して到達度を併用して、「大災害や感染拡大等の緊急状況に限定」して、娩出介助のみ行えなかった1例として、介助例に相当する評価を検討を要する。

- ・コロナで先行きの見えない4~5月に全助協が迅速に出してくれたので心強かった。事例の内容や到達度どうこうより、もしもの場合は分娩介助に替えれるというお墨付きが大きな安堵感をもたらした。ただ、事例はあくまで事例。実際の分娩介助1例から学ぶものとは大きな差がある。ここ2~3年はコロナの影響は続くと思ったほうがいい。分娩介助実習で形成される(形成すべき)助産技能とは何なのかを明らかにし、代替教育法をしっかりと考えていく必要がある。
- ・実習ができなくなり困っていた時に届き、校内実習での展開や事例演習に大変役にたった。有難かった。モニターが見にくく、判読に迷った。
- ・活用させていただきました。
- ・短期間に様々なバージョンでよく作成されていると思いました。
- ・間違えていた情報等があり、困った。
- ・少ない教員での実習で実習の制限があり、分娩介助数が10例に満たなかった。すでに動いている実習のなかで、新たに事例を作成する時間がなく、大変助かった
- ・情報が少ないため、充分使用できないところがあった。是非、ブラッシュアップしていただきたい。
- ・臨地実習開始当初より全員の学生が、分娩介助件数を10例経験できないことが見込まれた。実習指針を活用させていただくことになり大変感謝しています。そして、アレンジを許可していただいたことにより、学生のレディネスや学習進度に合わせた学習をさせることができました。
- ・どのレベルを学生に求めるかが明確化され、教育の標準化が図れる。
- ・産褥期・新生児期の充実が必要である。
- ・指針を参考に計画が立てられたので助かりました。また、大学に提出する卒の根拠資料としても提示させていただきました。
- ・本学では正常編を使用させていただいたが、卒業前には異常編を使用したいと考えております。
- ・昨年は使用しませんでした。状況により今年は活用することも考えています。
- ・事例は、実際に起こる様々な状況設定がされており、非常に学習につながりました。妊娠期の情報がもう少しあれば分娩予測の因子判別をさらに思考できたかと思えます。
- ・各事例の情報や経過が詳細であり、活用する上で大変助かりました。国試問題ケースのアレンジとのことで、学生に示す事例として安心して活用ができた。
- ・多様な事例が示されており、かつ評価視点を示していた為、非常に助かりました。
- ・実習施設から実習中止の連絡が入る中、どのように分娩介助10例の到達度を担保するのか日々苦しく悩んでおりました。ですが、学内学習指針によって実習方法を変更しても目標に到達できることが示され、心底ホッといたしました。学生の到達状況に合わせてアレンジして使用させていただきました。あの大変な時期におまとめ頂き、ここから感謝いたします。
- ・実習直前で実習中止となったため、学内で実習指針を活用し助産過程展開、シミュレーション学習できました。すべての事例を1例ずつ検討することで、学生のアセスメント力は格段に高まり、産婦をイメージするのに大いに役立ちました。情報が分断されている点が気になりましたが、その間の状況を想像する力もついたのでないかと考えます。担当の先生方、本当にありがとうございました。
- ・CTGの読み取りがあり、リアルに学習できた。中止が決定した後の学内演習計画がスムーズに行えた。今回は1施設のみ短期間の中止であったが、いつ学内演習の対応が必要になっても対応できると思え、心強かった。
- ・指針があるお陰で、それを基に学内実習の方法を検討しやすかったです。
- ・学内実習は入院時から胎盤娩出後2時間まで行うため、実際に学生が受け持った事例のほうがアレンジしやすか

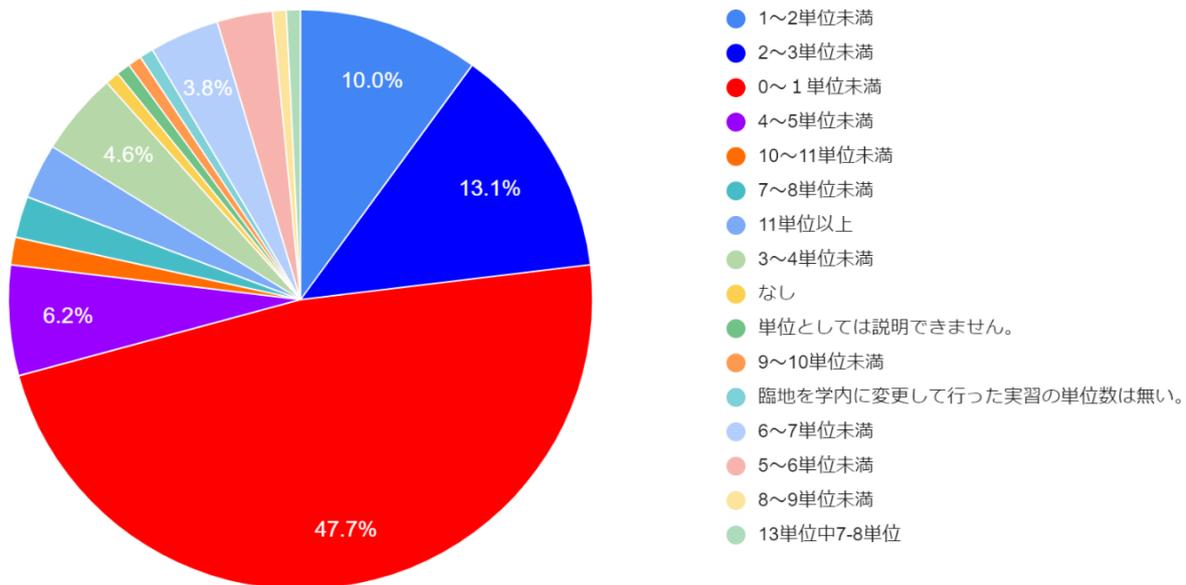
った。

- ・幸いにも分娩第1期のみ受け持った事例や間接介助の事例を活用できたため、学内実習指針は活用しなかったが、指針を示していただいたことで、安心して実習を組み立てることができ、評価表はそのまま活用いたしました。感謝いたします。
- ・大変分かり易い学生も振り返り学習にできる資料でした。具体的な学習のねらい(目的を明確にした事例設定であれば、なお良いかと思えます)
- ・早速、指針を作成していただき感謝します。評価の方法について具体的に示してほしいと思います。
- ・学生が分娩介助4~5例を経験した時点で学内実習に切り替え、全助協から提示された指針とその事例を活用して学習支援を行った。事例はシンプルではあるが、臨床現場の具体的な状況をイメージしやすく、事例ごとの特徴と必要な助産ケアを学習するのに大変役立った。自校独自のものではなく全助協から示されているものなので、適切な学習内容とその評価については保証されると考えるので、今後も活用していきたい。
- ・実際に分娩介助事例としての活用とはなりませんでしたが、活用を想定し、事例集として冊子にし、学生に説明してから、実習開始とともに臨地に持たせました。臨床指導者にも事前に説明をしました。分娩ケースのない実習時間の演習のための事例としても活用させていただき、大変ありがたかったです。豊富な事例を示していただいており、ぜひ今後も継続していただきたいです。
- ・事例としてよく出来ており、使用しやすかった
- ・アセスメント能力の向上につながった。細部にわたり演習のイメージができやすく技術の向上につながった。臨地実習に出た学生と学内実習になった学生と比較して大差なく学ぶことが出来ました。
- ・もう少し、どの事例も情報の追加が必要である。
- ・事例については、もう少し情報が追加されてもよいと思った。実際には、不足情報を確認しながら学習することで活用はできたが、今後も活用したいので更なる改訂を希望する。
- ・分娩介助技術以外の内容も充実していただけると良い。直接分娩介助を5~6例経験した後の学内実習で使用した。ある程度の症例を経験していたことで紙面での情報のみで助産過程の展開・演習を行った。掲載されている情報についてもっと詳細な設定が必要と思われる部分があったため、検討いただけると有難い(学内実習では、この詳細な情報が必要な部分は、教員が適宜情報を追加・修正した)。
- ・学内実習を行う際に大変役に立ちました。独自に事例を作成する際の参考ともなりますので可能であれば、妊娠期や産褥・新生児期、退院後の継続事例を提示していただけることを希望します。
- ・今回、臨地で本学で予定していた通りの実習が行えたため、当指針を使用する機会がございました。次年度、本学の教育に際して参照させていただきます。
- ・「助産学実習 学内実習指針 2020」の事例を骨組みにしてアレンジできたので、大変助かった。できるだけリアルなシミュレーションになるように工夫した。学生1人のシミュレーションに教員が3人程度必要となり、教員の確保が困難だった。
- ・臨地実習で分娩介助が10例に満たない場合も想定していましたので、指針があることで先の見通しが立ちました。指針作成お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・事例は大変ありがたかった。基本情報および時間経過に沿った事例は学生に提示しやすく、かつアセスメントする上で必要な情報は教員が適宜追加できる状況なのでアレンジがしやすかった。・事例の経過時間をリアルタイムに変更して使用しました。・家族の様子や対象者の生活・心理が見える情報が少なかったため、紙上事例の限界を感じた。・実際の産婦さんからの学びに勝るものはないと思うが、今後学内実習を行う機会があれば、模擬患者の発言から心理や生活が見えるような内容を加えて実際に近い形でアセスメント・ケアできるように工夫して使用したい。
- ・対象の妊娠経過や基本情報があまり記載されていないため、事例の全体像を把握しにくい点があります。実際の分娩ケースの場合、妊娠経過や基本情報の中から、ケースの入院した時の状況に応じて必要な情報を収集する。ケ

一スの分娩進行状況に応じてケースの全体像を把握しながら助産診断しながら分娩期の助産ケアを実施します。最低でも母子健康手帳の妊娠経過の情報が欲しい。使用する時にアレンジをするには、妊娠経過の情報などが少ないため、追加していることが多いです。また、CTG 所見が明瞭でないため CTG の判読に使用しにくいことがあります。中々適切な CTG がないことは理解できるのですが、正常を判定できる CTG があると活用しやすいです。

・産褥・新生児期、継続事例である妊娠期から産後 1 か月までの事例があるとよい。

18. 2020 年度の助産学実習（分娩介助だけでなく継続実習や管理実習等、すべての実習を含む）において、臨地を学内に変更して行った実習の単位数を、学生 1 名あたりの平均単位数で教えてください。130 件の回答



19. 現時点で、COVID-19 の影響により、すでに次年度（2021 年度）の助産学実習に支障が生じている場合は、その状況をお聞かせください。81 件の回答

- ・受け入れの中断
- ・次年度も引き続き実習受け入れ困難との返答の施設が複数ある。新たな施設開拓中であるが、どここの施設も、感染予防の観点から実習受け入れそのものを最小限にとどめており、新規の受け入れをお願いできる状況ではない。COVID-19 による分娩数の減少傾向も実習受け入れの支障となっている。
- ・現時点では特になし。
- ・臨地からは「感染の状況による」という回答で、不確定な状況です。
- ・1 か所の施設からお断りがありました。
- ・原則、臨地では見学のみと言われている施設がある。代替の実習施設を探しているが、コロナ禍で受け入れてもらえる施設がない状況です。
- ・コロナ感染受け入れ病院である 1 施設から実習のお断りがあった。
- ・感染状況や病院の状況等により実習が受けれるかどうかはわからないと言われている
- ・管理実習は病院では行わない。また、分娩件数が多い個人クリニックでの実習を断られている状況であり、分娩件数を達成できないと考えられる。2020 年度に行ったような学内での実習を取り入れながら例数を重ねていかざるを得ないのではないかと考えている。
- ・今年度もそうでしたが、今の時点で引き受けていただいても変更の可能性が示唆されています（分娩介助実習そのもの、NICU, マザークラス、ハイリスク実習等）。できるのか不安がぬぐえません。
- ・遠隔地の実習施設への学生配置の中止

- ・現時点では問題は生じていないが、コロナ禍で新しい実習施設の開拓などが行いにくい。
- ・受け入れ学生人数の制限
- ・実習受け入れ中止施設がある
- ・現時点で実習受け入れを中止している施設に 2021 年度の実習依頼ができない。施設側から依頼文の送付についてストップがかかっている。
- ・母性実習を臨地で体験しないままに、助産実習になる。実習受け入れ施設の減少の危機。事前の介助技術等の演習時間が確保できない。
- ・実習受け入れが確定できない実習施設がある
- ・特になし
- ・現在の所、支障はでていません。
- ・今年度を踏まえて病棟に行く人数の調整をしており、臨地では問題なく受け入れしてそうです。地域の実習では保健所などは今後も難しそうなので、今年度の実習を継続する形で、依頼をしていっているため、支障はないです。
- ・まだ具体的にはない。
- ・総合病院では正常分娩が激減。分娩数が増加したクリニックでは、学生の受け入れに消極的。また、新人助産師の実習での文献介助数が 0~1 というのが多く、次年度はその新人の教育も行わなくてはいけないので、実習の期間延長などはできないと言われている。
- ・分娩件数の減少により分娩介助例数が確保できない可能性が高い。それに伴い産後の実習も 1 日あたりの実習可能人数を 10 人から 4 人に制限され他校との調整に困難がある。
- ・実習施設の分娩予約数が減少中なので、学生配置を減らすよう検討中。
- ・ワクチン接種や PCR 検査の状況が劇的に変化しない場合、昨年と同じく、分娩時の学生数制限や時間制限は継続される状況である。
- ・実習施設側の要望で、教員・学生とも PCR 検査を行い、陰性結果を確認して、翌日から実習をスタートしています。
- ・受け入れが困難な状態であり、他施設に実習人数増を交渉しているが、受け入れが困難な状況であり、対策を検討している。
- ・実習施設の受け入れ中止が、現段階で 3 施設、受け入れは可でも制限あり 1 施設
- ・今年度と同様、実習施設が受け入れて頂けたら、支障はない。
- ・現時点では受け入れ可能という返事をいただいている
- ・主要な実習施設の一つがコロナ専門病院になり、使用可能な施設数が減った。
- ・感染者数が減少しないこと、ワクチン投与の見通しが立たないので、次年度も今年度同様に計画していくしかないと考えています。
- ・予定をしている実習病院の実習可否が不明確（実習可の病院は経膈分娩数が少ない）
- ・実習期間の確保/確約をしてもらえていない
- ・実習受け入れ施設が減少し、実習可能施設に集中するため、実習施設の負担が大きくなっており、今後の受け入れが懸念されること。分娩介助例数が確保できるか。
- ・未定
- ・1 年次生の妊婦健診実習を感染状況により、一時休止したことから例年より経験数が少ない。施設が集団教育を中止しており、母親教室などの見学ができていない。
- ・通常年の半分の実習施設から実習を断れており、現在実習施設の確保に当たっている。
- ・現時点では、予定通り実施できる予定
- ・現在、実習病院（2病院）が新型コロナ専門病院になっている。そのうち 1 病院は分娩予約を 9 月まで停止しているため、実習時間の制限を余儀なくされている。新規の実習病院を開拓したいが、この時期に受け入れてくださる病院は期待薄である。さらに、当校は病院付属の助産師学校ではないため、無条件で新型コロナウイルスワクチンを

接種して下さる病院もない。ワクチン接種がない場合の分娩介助実習が可能であるか、不安に思っている。

- ・次年度の予約分娩数が少ないとの連絡が実習施設からあった
- ・外来実習（妊娠期、産後 2 週間健診、産後 1 か月健診）ができない。・1 日の実習受け入れ人数、受け入れ時間の制約がある。（夜間は難しい、日中のみ、1 日の中で、午前午後半日づつの実習など）
- ・次年度の助産実習受け入れ中止の施設が複数あるため、学内実習で補填できるのかが不安です。
- ・現在は未定です。
- ・実習の開拓を行ったので、現在のところは例年通り行う予定である。
- ・今のところなし
- ・現時点では承諾を得ているコロナ患者受入れ医療機関での実習（ハイリスク実習）は、今年度同様に実習中止を言われることが予測されます。分娩介助実習施設については、不安定な感染状況の対応や分娩数の減少により、2 施設（学生 6 名配置）から断られています。新規施設の開拓にもこの時勢では不適切と考え、1 施設に配置する学生数が増すことで、今後の調整が難航することを予測します。
- ・保健センター実習について、ワクチン接種の会場になっている等のことから受け入れが難しい状況である旨の連絡があった。
- ・ハイリスク助産学（NICU）が 1 施設で中止となった。
- ・1 か所の実習施設から、実習を断られた。1 か所は学生人数を 1 名にしてほしいと依頼があった。
本学は年度ではなく、1 月中旬から年度をまたいで 6 月までの期間で実習を行っている。今年 1 月中旬より開始予定であった継続事例の妊娠期実習は、COVID-19 の影響で実施できず、2 月中旬より再開した実習で、分娩介助をさせて頂いた事例に許可を得て、継続事例として実習を行っている。妊娠期の実習は別途、セクション別実習で対応している。昨年の学生は実習時間短縮はなかったが、現在は 8 時から 14 時までの実習で 1 回のケアは 15 分を原則としている（分娩介助はその限りではない）。このまま 4~6 月にかけての実習へと向かうこととなるが、感染拡大状況やワクチン接種（3 月中旬以降予定）状況によっては、実習内容が改善されることも予測している。
- ・次年度の助産学実習受け入れが困難である連絡が既に入っています。分娩期実習を中心に実施する施設であり、非常に困っております。コロナ禍において新規実習施設を開拓することは現実的に難しいです。次年度も「助産学実習 学内実習指針 2020」を用いても良いものか迷っております。
- ・まだ未定ですが、不安しかありません。
- ・実習の受け入れについては予定通り行えるが、家庭訪問や集団指導、立ち会い分娩など経験内容が限定的となる可能性はある。
- ・実習受け入れが、現時点で未定の施設があります。・実習受け入れは可能ですが、継続ケース実習（妊娠期実習）ができない施設があります。
- ・実習受け入れ不可の施設が出ている。入学予定学生数の 50%しか実習施設が確保できていない。新規実習施設の開拓は無理である。
- ・感染対策のため、実習受け入れについて3施設／6施設中が未定である。決まっている実習先についても状況により要相談となっている。
- ・妊娠期から継続事例が受け持てない（分娩期以降からになるため、妊娠期は学内実習）
支障は生じていない
- ・なし
- ・4 月から 2 年生のハイリスク実習が始まります。来週指導者会が開催されるので現時点ではわかりません。
- ・実習受け入れの中止施設があり、実習施設が不足している。
- ・助産所実習の施設で嘱託医がなくなりそうなので、実習可能かどうか相談中です。
- ・現時点で、明らかに COVID-19 の影響による支障はありません。

- ・緊急事態宣言が解除されていないので、実習の打ち合わせができていない状況です。
- ・ハイリスク助産学演習 (NICU) が 1 施設が病院方針で中止となった。
- ・実習の受け入れ許可が出ていない施設があります。
- ・現時点では実習受入可否については確定していない (特に個人病院・医院)。
- ・地域母子保健実習の市町村実習の実習方法変更を依頼された
- ・実習施設側が学生の受け入れを検討中
- ・現時点では未定であるが、若干昨年度よりは実習時間延長の可能性があるような感触です。
- ・COVID-19 の蔓延により実習施設確保が難しく、1 施設に複数の養成所が実習依頼を要請する形となった。結婚控え妊娠控えにより分娩数が減っているという情報もある。
- ・2施設より受け入れ中止の連絡あり。それ以外の施設についても現時点では受け入れ可能であるが感染拡大状況により中止の可能性ありとの条件あり。
- ・夜間実習など、実習時間が限られている中で、分娩件数も減少しているため、日勤帯のみの実習では、分娩介助をすることができない。産婦からの受け入れは比較的良かったが、家族が立ち合えないのに、学生はいいのか、スタッフ、家族の理解が難しかったので、理解を得られるようにしたい。
- ・実習期間の短縮、配置学生人数の調整、実習施設の変更
- ・実習施設の減少に伴う、配置学生数の増加
- ・1 実習施設から県内感染者数によって実習中止となるのが方針として出ている。
- ・行政からの地域母子保健実習・乳児家庭全戸訪問事業に関する実習の受け入れがあるか、現時点でわからない。助産院 (母乳育児相談室) での実習受け入れが、4 日から 1 日に短縮した。
- ・既に、次年度においても実習受け入れ中止の連絡が来ている実習施設ある
- ・実習施設が受け入れ可能かどうか、COVID-19 の感染状況による。

20. 全国助産師教育協議会では、2020 年度に COVID-19 に関連して、会員校の実習状況に関する情報収集、関連省庁等への要望書の提出、「助産学実習 学内実習指針 2020」の作成・提示、コロナ禍における教育方法の工夫に関する地区研修会の開催等を行ってきました。本会の活動についてご意見がありましたら、お聞かせください。

66 件の回答

- ・特にありません。
- ・積極的な取り組みに感謝します。
- ・他校の実情や工夫を聞かせていただく機会となり、役立ちました。
- ・先行ワクチン接種を引き受けてくださる施設が見つからない。学生にも行き渡るように政府の働きかけがあると良い
- ・貴重な情報を配信して下さり大変助かっています。研修会も web が多くなったことで参加しやすくなりました。
- ・事例を提示していただくなど、迅速に対応いただき大変感謝しています。どの教育機関も初めての状況に混乱していたと思いますが、そういったなか、全助教からの情報提供は教育の支柱となっています。ありがとうございます。
- ・大変助かりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・次年度も急遽実習が断られ、施設を変える可能性もあります。次年度も引き続き文科省において、実習施設開拓について申請期間の規定をなくしていただけるよう、働きかけていただきたい。また、国公立病院において実習の変更、延期、中止が急に通達される傾向が強い。それも看護・助産と一つにくくられている。公立病院でコロナ感染患者の受け入れをしているが、実際に実習に行けた施設は、看護は人数が多いためでも助産は実習が必要と考えていただいていた。病院によって (看護部?) 温度差が大きいと感ずる。助産実習はご考慮いただけないかという実習依頼文などは、全助教から公の施設に出せないものでしょうか。
- ・早々に「助産学実習 学内実習指針 2020」が活用できるようになったので学内実習事例作成に役立てることができた

- ・国の指針等、公的な情報提供してもらえることで助かっている。現時点では、学生も教員もワクチン接種の優先対象医療者になっていないし、医療者に含めるには実習施設で学生を届けてもらわなくてはならないため、本学は対象にならない。医療系の学生や、実習指導に当たる教員は、学校単位で数えてもらえるように働きかけて欲しい。
- ・「助産学実習 学内実習指針 2020」は、分娩介助件数が足りない学生の学内実習を行うにあたり本当に助かりました。
- ・タイムリーな対応をいただき、本当に助かりました。全助教に入っていてよかったと実感しました。今後も更に発信いただくと助かります。学生は感染予防のため全くバイトも帰省もせずに実習をしようとしているのですが、受入れ側は学生からの感染を危惧され(学生としては、学生が感染するリスクの方が高いと認識)実習できず、気の毒でした。また、シミュレーションや事例では、実践力は習得しがたいものです。事例やシミュレーションで代替するのは緊急避難的に今年度のみであるとしたいです。今まで10例の直接介助が必要と言っておきながら、シミュレーションや事例で十分という話にはならないはずです。そこを助産教育をするものとしては、共通認識を改めてしなくてはならないと考えます。決して今年度卒業させた学生は10例介助した学生と同レベルではありえません。よろしくお願いいたします。
- ・地区研修会等より情報の共有ができて良かったです。
- ・学内実習指針が前期実習まえに出たことで、教員たちの安心感が違いました。本当にありがとうございました。
- ・地域差、病院差はありますが COVID-19 収束後もその余波が一定期間継続すると思います。次次年度あたりまでは学内実習による例数を認めて頂けるよう厚生労働省への働きかけをお願い致します。
- ・関係省庁からは「分娩介助10例」への緩和措置が明確に出されないままのため、「10例に満たなくてもやむを得ない」との明確な発令が欲しいと思います。引き続き省庁への要望等、よろしくお願いいたします。
- ・近畿地区研修会での、オンライン演習や学内実習の実際について、非常に役立ちました。
- ・活動いただいた皆様にはお忙しい中、ご苦労も多かったことと思います。本当にありがとうございました。
- ・タイムリーな活動、情報発信をしてくださり、ありがとうございます。
- ・今回のことで、分娩介助をしなくてもいいと大学組織として把握してしまっており、これが解除されたあとも「10例を満たさなくてもいい」と誤った判断をし続ける怖さがある。シミュレーションで実習単位として認めることには、現時点では仕方がないことかもしれないが、この時期を脱したのちには、きちんと10例程度を分娩介助するという新たな情報発信をしていただきたい。また、今年度の教育を受けた学生たちは、例年の学生と比較してどのような特徴をもつのか、就職先での状況を改めて調査していただきたい。
- ・「助産学実習 学内実習指針 2020」は早期に完成していたので、実習受け入れが不可となってからすぐに指針を用いて、実習を行うことができ、また、独自の事例を考えていく上での参考になり、たいへん役立ちました。
- ・今年度の全助協の対応の迅速さには感銘を受けています。省庁等からの情報転送も速くて助かりました。自校のことで大変な状況なのに、全国の教育機関のために使命感を持ってやってくださったことに深謝します。
- ・コロナ禍において迅速に情報提供をしていただき、感謝しております。今後も教育に役立つ情報や分娩件数に関する考え方など、できるだけ早くお教えいただくと大変助かります。
- ・社会の動向に向けて、「実習指針」を提示していただけたことは、とても素早く、素晴らしい活動とそのスピードだったと思います。さらに各関連省庁への要望及びそこからの連絡に関してもスピーディーな情報伝達であったと思います。
- ・分娩介助が確保できなくても、助産師能力の質の担保の工夫について、各学校どのような工夫を行っているのかを意見交流がほしい。コロナ禍、助産活動の実践が難しく、公的に学生を受け入れできるようにしてほしい。
- ・今後とも、よろしくお願いいたします。
- ・今後も COVID-19 の影響が長引くようであると、卒業する助産師学生の経験差が出るのではないかと危惧されます。
- ・分娩介助(臨地+学内)の目安となる数を示してほしい

- ・急なオンライン対応が求められる中で、提供される情報や学内実習指針は大変洗練されており、大変助けられました。特に、学内実習指針の作成をご担当された先生方には、教員一同、心から感謝しています。ありがとうございました。
- ・2021年度もコロナ感染およびコロナ感染による影響を受けており、10事例程度の分娩は確保できず、実習内容において配慮いただきたい。
- ・今年度は東日本大震災の特例措置を適応してくださったこと、そして「学内学習指針2020」を作成し、分娩介助実習の1例として認めてくださるよう厚生労働省へ掛け合ってくださいましたことにご多大感謝申し上げます。おかげにより学生を卒業まで育てることができました。一方、オンライン授業の導入、事例学習の重要性、学内実習の工夫など授業方法について多くの学びも得られました。これからの助産師教育について、今後も検討していきたいと思えます。それに関する御指南をお願い致します。
- ・今回の要望書で出していたことに近いこととして、東京都からフリースタイル用分娩介助シュミレーターの貸し出しがあり、本来なら助産院で見学させてもらう予定でできなかったところが補完できた。特に学内実習指針2020の事例はそれらを土台にしてアレンジしやすくこれからも活用できる。
- ・予期しないコロナ禍の中で、教育方法・実習調整などの対応に追われた1年間であった。学内実習指針2020は、活用できたのでよかった。
- ・今年度も昨年同様の状況が予測されるため。要望書等の提出を継続していただきたいです。
- ・大変参考になりました。感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・教育に関する最新情報の提供、教育方法の工夫、関連省庁とのパイプ等、助産師教育の質の担保のため有益な活動をしていただいている。
- ・できなかった時の対応策が提示してあるので、精神的に心強い。
- ・大変な時期に迅速に対応していただいたと思います。研修会で得た内容も参考にこの一年取り組ませていただきました。ありがとうございました。
- ・本校は1年の教育課程のため、実習開始前の6月に「学内実習指針2020」が提示され、学内実習の準備に向かうにあたって大変心強かったです。地域によって医療体制も異なるため、地区別に意見交換や交流(オンライン上)がもっとできると良かったのでは、と今後は期待します。
- ・他校との情報交換の機会があり、助かっております。
- ・2年コースから1年コースまで、達成目標が違うので、各学校で考えることが多かった。
- ・いつも迅速に情報を頂き、対応を検討頂き、感謝申し上げます。私共の施設では、分娩介助が実施できましたので学内実習指針を使用することなく終了できましたが、今後も色々な状況が予測されますので、参考にさせていただきます。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。
- ・「学内実習指針2020」の事例は、学内実習の助産診断演習にとっても役立ちました。
- ・迅速な対応に感謝しています。特に単位認定、国家試験受験資格について学生・教員ともに不安でしたのでその点が学内実習で単位認定できる方針が示され安心できました。県内のすべての分娩施設に受け入れの可否を打診しましたが、受け入れはしていただけませんでした。学内実習で単位は認定できましたが学生はやはり実習にでたかったようです。
- ・学内実習指針の公開が早く、ホームページからダウンロードできることが助かった。
- ・臨地実習が可能か不明な時期に、「学内実習指針2020」を示して頂いたことは非常に心強かったです。
- ・本学の参考にはできなかったが、情報交換はできた。地区研修会は開催したほうが良い。
- ・学習の質保証のために、不測の事態に対応できるツールがあることは教える側の安心にもつながった。今後も、新型コロナウイルス感染症予防対策は必要であるため、教育方法の実践結果について共有できるとよいと思う。
- ・臨地と学内のハイブリットな実習方法について考える良い機会となり、これでいいのかと不安になったときに大変役立ちました。助産師教育が安心してできる環境を整えるためにご尽力いただき、ありがとうございました。

- ・活動ご苦労さまです。成果が共有出来るように逐次に公開連絡を頂ければ幸いです
- ・大変な状況下で迅速にご対応頂きありがとうございました。学内実習指針はとても役立ちました。コロナの影響で少子化が加速しており、22年度以降の実習施設の確保にも苦慮しています。今後も学内実習を組み合わせることで10例介助を達成してよいのであればどうにか出来るのですが。全助教のほうでも効果的な学習方法についてご提示いただけますと幸いです。
- ・タイムリーに開催していただき、今後の教育に活かせる内容ばかりで感謝しています。オンライン研修で他学校の状況や工夫する方法かわかり心強く感じました。
- ・学内実習指針の作成、オンラインを活用した教育方法の研修会など、ぜひ継続していただきたいと思います。
- ・活用できる事例を提示して頂いたのが役立っている。
- ・特に意見はありません。1度回答しましたが、追加事項があり、2回目の回答です。すいません。
- ・今年度同様に最新の状況の情報提供をお願いいたします。
- ・タイムリーに動いてくださっていると評価しています。ありがとうございます。
- ・学内実習指針を提示していただいたことは、大変心強く、実質的に役立ち、有難かったです。就職先との連携について、示唆がありましたらお願いしたいです。
- ・事前に周知があり、活用できた。
- ・他施設の学内実習に関する取り組みを知る機会となり大変参考になりました。次年度もこのような研修を企画いただけることを希望します。
- ・助産師学生の10例の分娩件数では少ないかな、と思っていた時もありました。しかし、助産師学生の実習のために、新人教育に影響が出ている現場を見ると、卒後教育も併せて検討しないと思います。今、助産師に求められている能力は何か、そして、学内実習の充実を図るための工夫は何か、本当に考えさせられる一年でした。今後ともよろしく願いいたします。
- ・COVID-19下での様々な教育支援活動へ心より感謝申し上げます。地区研修会で得られた知見も学内の学習活動へ活かすことができました。今後とも教育の展開方法等に関して、引き続き研修会等を行っていただけますとありがたいです。文科省、厚労省との連絡調整等も引き続き行っていただけますと幸いです。全国助産師教育協議会の御活動に深く感謝いたします。
- ・情報提供が有難かった。他校の状況も意見交換でき有益だった。
- ・コロナ禍で困難が多い中、様々な活動を行われたことに感謝致します。お疲れ様でした。
- ・少子化の影響や今回のような全国的感染、また今後おこるであろうという大規模災害のことを考えると、臨地での実習ができないことがありうる。そのような状況で臨地での実習に代替できるものがあるのは非常に心強いです。